

自治体の課題、現状

- ・地域全体の課題
過疎化が進み人口が10年前からくべ約15%減少している。それに伴い、少子高齢化が進んでいる。
- ・地域移行の取組の現状
令和6年8月から地域クラブがスタートし、市内中学校3校合同で現在6種目を実施している。
- ・地域移行進める上での課題
指導者の確保と、学校・指導者間の連携強化。

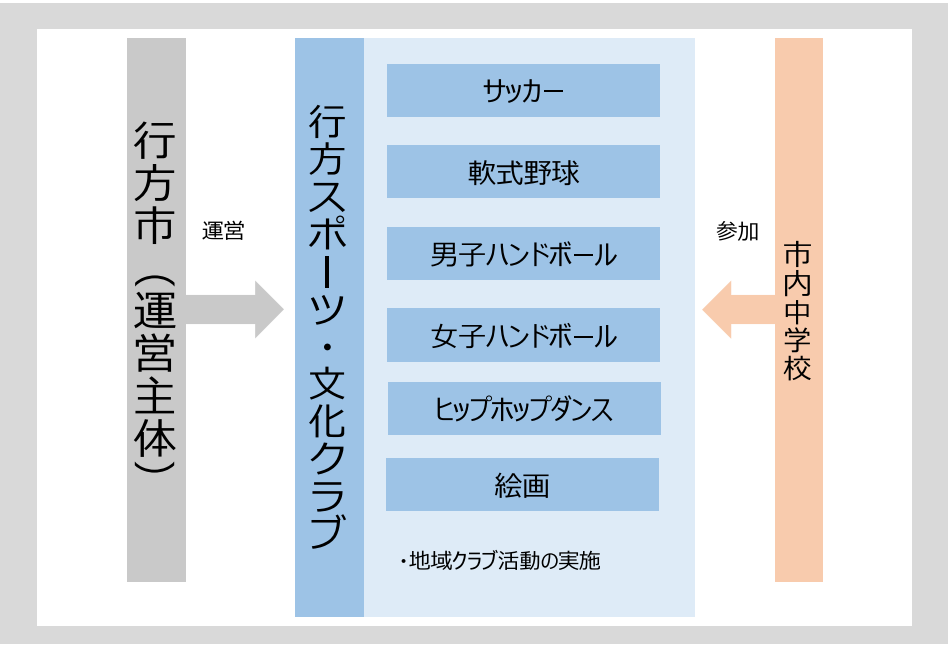
地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	3 校	全生徒数	663 人
域内の部活動数	34 部	実施した地域クラブ数	1 クラブ
全体の指導者数	30人	全体の運営スタッフ数	1 人
主な運営団体	行方市スポーツ・文化クラブ（事務局：行方市教育委員会）		
主な種目	サッカー、軟式野球、男女ハンドボール、絵画、ヒップホップダンス		
平均的な活動回数	1回/月	年間平均参加生徒実数	3年： 0人/クラブ 2年： 43人/クラブ 1年： 31人/クラブ
参加会費	1,000円/年	主な活動場所	市内各中学校 公共施設等

地域移行関連の取組、成果

- ・**アプリを活用**し、保護者・指導者・教育委員会間で活動の実施連絡や状況報告、情報共有を行った。これにより、円滑なコミュニケーションを確保した。
- ・スポーツ協会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツで中学生の受け入れ行い、多様な種目の受け皿を確保できた。
- ・**部活動種目**にない**ヒップホップダンス**を実施し、多様なニーズに対応した。

運営体制図



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県 行方市

自治体名： 茨城県行方市

担当課名： 教育委員会

電話番号： 0291-35-2111

本報告書は、スポーツ庁の「令和6年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業（運動部活動の地域移行等に向けた実証事業）」の一貫として、茨城県が実施した「令和6年度運動部活動の地域移行に向けた実証事業」の成果をとりとめたものです。

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	222.48 km ²
人口	31,811 人
公立中学校数	3 校
公立中学校生徒数	663 人
部活動数	34 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

当市の中学校は3つの学校があり、いずれの学校も、少子化の影響を受け、急激に減少傾向にある。そのような中で、運動部は13種目が活動しているが、部員数が減少し学校単体での活動が困難で近隣中学校との合同チームで、試合に出場している部活動がうち5種目ある。

今後とも、減少は進むものと考えられる。

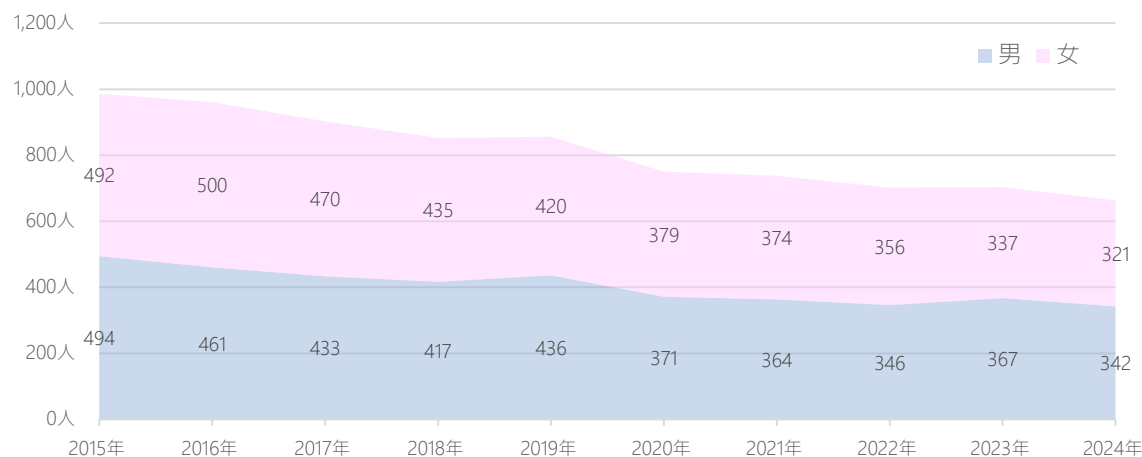
当市の地域移行は、6種目（サッカー、軟式野球、男女ハンドボール、絵画、ヒップホップダン

ス）で市内3つの中学校合同での活動を行っており、学校単位では少人数のためできないような練習も実践している。

うち、ヒップホップダンス教室は、部活では無い種目を取り入れ活動の幅を持たせている。

指導に当たっては、地域の指導者、教職員OB等として、現職の教職員は入っていない。維持していくためにも指導者の人員確保は必須である。

行方市内中学生徒の推移

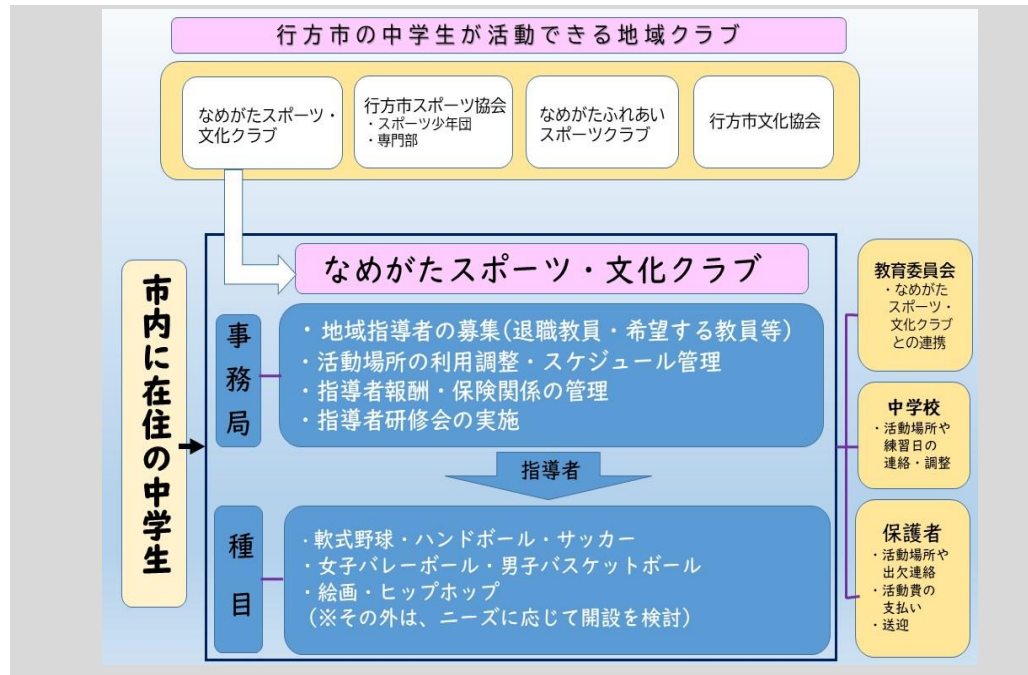


出典：文部科学省 学校基本調査

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校教育課・・・学校との調整、連携、保護者説明
- ・スポーツ推進室・・・指導者との調整、指導者研修

◎市長部局

- ・財政課・・・予算措置

年間の事業スケジュール

令和6年4月	第1回指導者研修会
令和6年5月	保護者説明会
令和6年5月	第1回地域移行検討委員会
令和6年6月	第2回指導者研修会
令和6年7月	保護者説明会
令和6年8月	地域クラブ設立総会
令和6年8月	地域クラブ活動開始
令和6年10月	保護者説明会
令和6年11年	第2回地域移行検討委員会
令和6年12月	指導者会議
令和6年12月	保護者説明会
令和6年12月	地域クラブ臨時総会
令和7年2月	第3回指導者研修会

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1 クラブ（5部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1クラブ
全体の指導者数	30 人	全体の運営スタッフ数	1 人

②クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
なめがたスポーツ・文化クラブ	行方市	サッカー（新） 軟式野球（新） 男子ハンドボール（新） 女子ハンドボール 絵画（新） ヒップホップダンス（新）	1～2回/月	不定	1～3年	通年 （R6.8開始）	中学校施設 又は 社会教育施設等	30人	1人	1000円/年	参加なし

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 新中学生の見学会を実施（令和7年2月～3月）

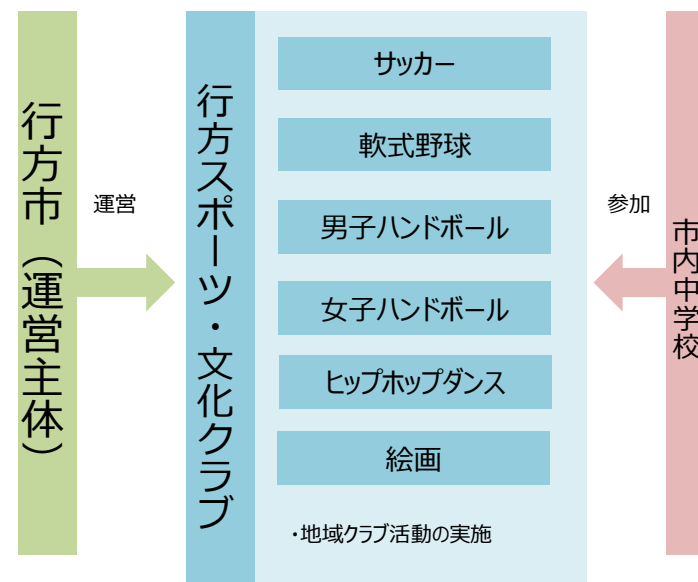
2.実証内容と成果

主な取組例

●なめがたスポーツ・文化クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、軟式野球、男女ハンドボール、絵画、ヒップホップ
運営団体名	行方市教育委員会
期間と日数	通年 1回/月
指導者の主な属性	スポーツ少年団指導者、教員OB、ほか
活動場所	学校施設、社会教育施設等
主な移動手段	なし
1人あたりの参加会費等（年額）	1,000円/年
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

記入例：

●クラブ運営者（教育委員会）

役割：運営全般、学校・指導者・保護者との調整を行う

●コーディネーター 1名

役割：運営全般、学校・指導者・保護者との調整補助を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○運営団体・実施主体である「なめがたスポーツ・文化クラブ」を設置し、教育員会・指導者・保護者との連携体制を構築。

○コーディネーターを配置し、指導者・参加者との細やかな調整を実施した。

○ICTを活用した指導者・参加者・教育委員会間を連絡アプリを使用した。

取組の成果

○なめがたスポーツ・文化クラブを中心に活動を展開し、教育委員会やクラブ間での活動方針の協議調整を円滑に行った。また、指導者の研修会を実施し、指導者の質の向上にも寄与した。これにより、地域のスポーツ・文化活動の発展が促進された。

○指導者と参加者間での情報共有がスムーズにできた。また参加者のニーズや期待を把握し、それに基づいて指導内容や進行方法を調整することができた。

○アプリを活用し、保護者・指導者・教育委員会間で活動の実施連絡や状況報告、情報共有を行った。これにより、円滑なコミュニケーションを確保した。

コーディネーターの具体的な動きの実績

○定期的にクラブを巡回し、活動状況把握と指導者、参加者（保護者）との意見交換を実施。

○参加者から負担金の徴収。

今後の課題と対応方針

○学校・指導者間の連絡体制がまだ不足している種目があり、体制整備が必要

○コーディネーターを担う人材が不足。学校・指導者とのパイプ役となれる人材が好ましい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者研修の内容

○第1回指導者研修会（令和6年4月19日）

「部活動地域移行の先行実施と学校との連携」

行方市立麻生中学校部活動指導員 宮川 晋 氏

- ・ハンドボールの指導者としての経験と学校との連携について
- ・「勝利至上主義」から「楽しむスポーツ」への転換
- ・生涯スポーツの基礎を築いていく場の整備について

○第2回指導者研修会（令和6年11月20日）

「行方市地域クラブガイドラインの概要および運営について」

行方市教育委員会

- ・これまでの経緯と今後のスケジュールについて
- ・行方市地域クラブにおける活動の在り方、学校との連携等について
- ・行方市地域クラブの運営について

「種目ごとのグループワーク」

- ・軟式野球・サッカー・ハンドボール・ソフトテニス・剣道・バドミントン

○第3回指導者研修会（令和7年2月1日）

「AED操作と救急救命について」

行方消防署麻生出張所 署員

「これからのスポーツの在り方を考えよう」

日本サッカー指導者協会（JFCA）藤原 明夫 氏

- ・勝利至上主義とハラスメントを生む原因の分析
- ・セーフゲーディングについて
- ・グループワーク

今後の課題と対応方針

- ・研修への参加率が低い回があり、開催日時、方法を検討していく。
- ・指導者の確保は、現状では地域の方からの紹介等が多いが、ホームページ等を活用し人員確保に努めていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○行方市部活動地域移行検討委員会を開催し、実施に向けた関係団体との連携・調整・課題の洗い出し等を行った。

○中学校入学説明会にて、保護者へ地域移行の現状について説明し、小学6年生を対象に見学会を実施。

○教育委員会直営とは別に、スポーツ協会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツの中学生の受け入れ体制を構築。

取組の成果

○地域の教育機関やスポーツ団体、地域住民など、様々な関係者との連携を強化し共通理解を深め、協力体制が構築された。

○クラブの見学には4種目（サッカー、軟式野球、ハンドボール、絵画）実施し、新中学生約30人の児童が参加した。

○スポーツ協会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツで中学生の受け入れ行い、多様な種目の受け皿を確保できた。



今後の課題と対応方針

○関係団体との連携を強化し、多様なニーズに対応に努めていく。

○運営の団体を市内のスポーツ団体へ委託し、地域のスポーツ資源の活用を検討。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和6年8月に「なめがたスポーツ・文化クラブ」を設立し、行方市教育委員会の主導で「地域クラブ」がスタートした。

行方市では、スモールスタートでできることから、サッカー、軟式野球、男女ハンドボールの4種目を月に1回の活動から始まった。

各種団体と連携を取る中、絵画、ヒップホップダンスの指導者が見つかり、11月から2種目を追加した。

ヒップホップダンスは、当初の計画では開設の予定はなく、また市内中学校で部活動になく他の種目とは一線を画すものだった。

今後の活動について、検討を重ねた結果、行方市の地域クラブと並行してスポーツ少年団、スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブでの中学生受け入れについて進めることとした。こうしたことで、地域クラブとは別に多様な種目に対応することができた。

●成果の評価

- 部活動種目にはないヒップホップダンスを実施し、多様なニーズに対応した。
- 当初の計画方針から、アジャイル手法を用いて柔軟に対応することに変更した。
-

●今後に向けて

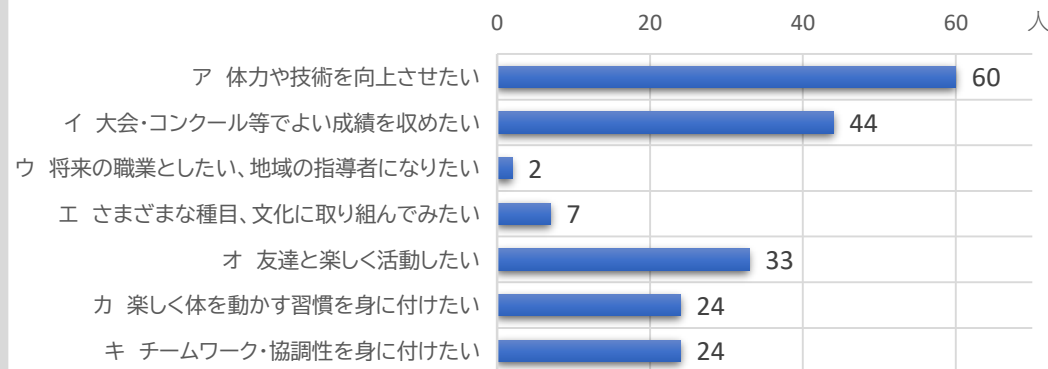
- 令和6年度は1～2年生であったが、生涯スポーツの観点から、3年生卒業まで活動できるようにする。
- 各団体と連携を密に行い指導者の確保に努める。さらに活動できる種目を増やしていけるよう努めていく。
- 1回/月の活動から、月に複数回の活動を実施に向けて調整する。

2.実証内容と成果②

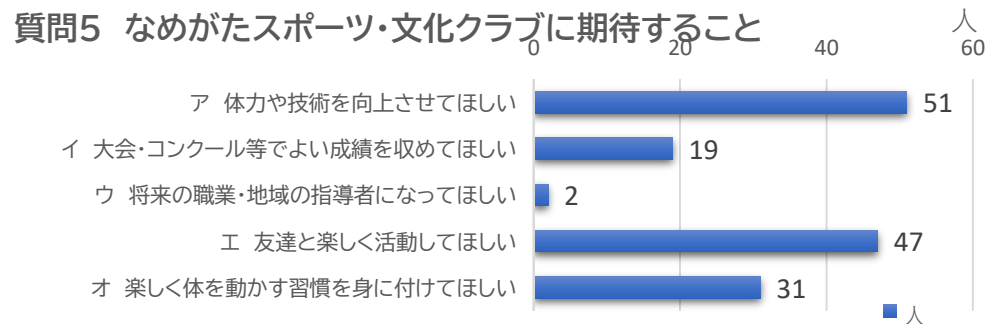
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

Q【参加者】地域でのクラブ活動に期待することは何ですか？



Q【保護者】地域クラブ活動に期待することは何ですか？



●参加者の声

参加者

学校にない種目だから、強くなりたい。
社会で必要なことを学びたい。

保護者

部活以外に体を動かす機会の増えて良かった。他チームとの練習試合などができれば、モチベーションがあがると思います。

保護者

プラスでお金や送迎がかかるだけで、結局何がしたいかわからない。

教職員

教員の負担が減って大変助かっている。それにより空いた時間を授業準備に充てることができた。地域移行を進めてほしい。

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

地域移行の活動開始するにあたって、市内中学校生徒・保護者に理解を深めるため教育委員会で動画を作成しYouTubeで配信した。

令和6年12月9～23日の市内中学生1～2年生、小学4～6年生教職員を対象としたアンケートを実施し、ニーズ等の調査を行った。

【お知らせ】

行方市 部活動地域移行
(地域クラブ化)

2024年8月より

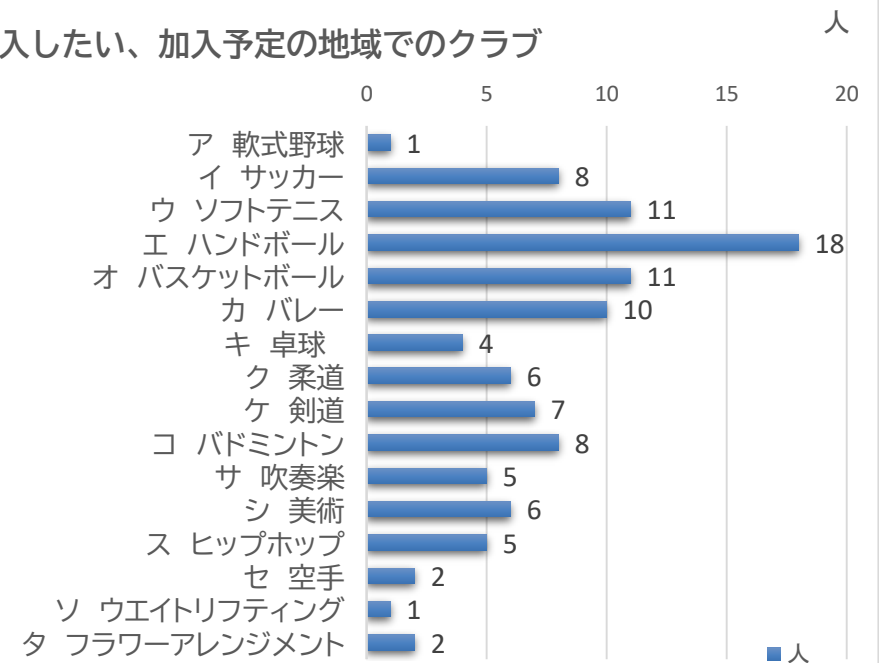


地域クラブ
「なめがたスポーツ・文化クラブ（仮称）」
がスタートします。

出典:行方市教育委員会

【生徒への参加啓発動画】

加入したい、加入予定の地域でのクラブ



出典:行方市教育委員会

【アンケート結果】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【軟式野球】



【ハンドボール】



【絵画教室】



【ヒップホップダンス】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

市内中学校長、スポーツ協会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ

●経過

令和4年12月に第1回目の行方市部活動地域移行検討委員会を開催し、おおまかな骨子となる行方市の方向性と推進計画を策定し、令和6年度から段階的に移行していく計画とした。また、市内中学校を合同で種目ごとに地域移行していくことで進める。

令和5年度には、より具体的な「行方市部活動地域移行推進計画」を策定。先行的に、部活動の顧問を含めた市内中学校の3種目（サッカー、軟式野球、女子ハンドボール）の合同練習を実施した。

令和6年には、「なめがたスポーツ・文化クラブ」を発足。地域移行による活動を4種目からスタートした。のちに2種目を追加し、74名の生徒が参加した。

●実施にあたって生じた課題

○部活動の地域移行において、指導者の確保が重要な課題である。

○クラブの運営経費の捻出のため、保護者への負担が増える。

○学校・地域との連携を強化し、持続可能なクラブ運営をしていく必要がある。

●実施内容、工夫した点 等

○行方市では、現職教員の兼職兼業に依存せず、地域の指導者を活用する方針とした。

○すべての部活動を地域クラブ化するのでなく、すでにある地域の資源（スポーツ少年団、クラブなど）を活用し、中学生の受け入れ体制を構築した。

○いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツを目指し、総体引退後でも継続して参加できることとした。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

地域クラブ化に向けたスケジュール

令和6年度 8月から地域クラブがスタートしました

令和5年度

Ⅰ 試験的先行実施
(試行)

※合同部活動
として実施

- ・軟式野球
- ・サッカー
- ・女子ハンドボール

令和6年度

Ⅰ 地域クラブ

- ・軟式野球
- ・サッカー
- ・男女ハンドボール
- ・ヒップホップ
- ・絵画

2 試行

- ・女子バレー
- ・男子バスケット

令和7年度

Ⅰ 地域クラブ

- ・軟式野球
- ・サッカー
- ・男女ハンドボール
- ・ヒップホップ
- ・絵画
- ・女子バレー
- ・男子バスケット

2 試行

- ・卓球

令和8年度
以降～

Ⅰ 地域クラブ

- ・軟式野球
- ・サッカー
- ・男女ハンドボール
- ・ヒップホップ
- ・絵画
- ・女子バレー
- ・男子バスケット
- ・卓球

※その他の種目
→順次ニーズに
応じて地域クラブ化
を検討